

探求

パブリックアートで学ぶ

必修選択【アート思考】 関西学院高等部 2年生

【氏名】 上田篤志 教諭、東浦哲也 教諭

🌀 展開例

目的

「地域とアートの関わりを探る—阪神間におけるアートの機能や役割」について考えるため、実際に現地に足を運び、「生の」作品を直接観察し、そこにいる人たちの声も収集し、現地の人びとの視点から地域社会を考える。(その際、自分、自分たちの視点が限定的であることを反省して、もう一度自分の言葉で捉えなおす。)

美術館前の取り組み

パブリックアートの変遷について学ぶ。

小磯記念美術館での活動

六甲アイランドのパブリックアートについて、神戸市のアートを取り入れた街づくりの取り組みについて、学芸員の方よりレクチャーを受ける。

美術館後の取り組み

六甲アイランドに設置されている様々な作品についてグループで鑑賞しながら、自分が気になる作品を一点選び、その作品についてグループ内で意見交換したり、また地域の方々へのインタビューを行い、その場所にその作品があることの「固有の意味」や作品の魅力などについての考察を深める。一週間後の授業で、グループで気になる作品についてピックアップしながら活動の報告と、神戸市の街づくりの一環として地域(六甲アイランド)のあり方について考察したことを発表する。



🌀 今回の取り組みについて

関西学院高等部では2、3年生の2年間継続して一つの探究科目を選択受講します。その科目の一つとして「アート思考」の授業を展開しています。物事の観察や捉え方について各人が柔軟な思考力を持つことと、アートが社会の中でどのような役割を果たし、これからアートは社会でどのような可能性を示すことができるのかを考えていくことを目標としています。

社会で、様々なことを経験していくとき、それを受け止める自分のセンサーの感度を高めていくこと、初めて出会うことにも自分なりの柔軟な考察を行うことができる力を持つこと、はととても大切な学びです。枠にはまらずに自分の思考を深めるためには本物の作品と出会う経験が必要です。阪神間にある美術館やパブリックアートを実際に訪れて感じ取る経験は必ず一人一人の心に残り、力になっていきます。